

## 論文内容の要旨

報告番号		氏名	森本 勝彦
Renal arteriolar hyalinosis, not intimal thickening in large arteries, is associated with cardiovascular events in people with biopsy-proven diabetic nephropathy			
腎細動脈のヒアリノーシスは、大動脈の内膜肥厚とは異なり、腎生検で証明された糖尿病性腎症患者の心血管イベントに関連する			

### 論文内容の要旨

糖尿病性腎症は末期腎不全に至る最大の原因であると同時に、心血管病による死亡率が著明に高く、腎不全に至るより先に心血管病を発症することが多いことが明らかになっている。しかし、糖尿病性腎症は臨床所見で診断されることが多く、その腎病理にみられる血管病変と心血管イベント発症との関係は明らかにはなっていない。本研究では、奈良県立医科大学で30年以上にかけて集積した世界最大級の糖尿病性腎症コホートをを用いて、腎病理組織と心血管イベント発症の関連を後ろ向き研究として調査した。対象は腎生検で糖尿病性腎症と確定診断された2型糖尿病患者377例で、追跡期間の中央値は5.9年(四分位範囲2.0~13.5年)であった。糖尿病性腎症に特徴的な2つの血管病変である細動脈ヒアリノーシスと動脈内膜肥厚、および糸球体病変や間質病変について、心血管イベント発症との関係性を調査した。377例のうち331例(88%)に細動脈ヒアリノーシスを認め、また295例(78%)に動脈内膜の肥厚を認めた。全観察期間中で149例(40%)に心血管イベントの発症があり、細動脈ヒアリノーシスを認めた患者群では、この病変を認めない患者群に比べて有意に心血管イベント発症が多かった( $P=0.005$ , log-rank 検定)。臨床的に関連する交絡因子を調整したところ、細動脈ヒアリノーシスの存在は心血管イベント発症の独立した危険因子であった(HR 1.99, 95%CI 1.12-3.86)。しかし、動脈内膜肥厚と心血管イベント発症との関連はみられなかった(HR 0.89, 95%CI 0.60-1.37)。さらに、糸球体病変と間質病変も、心血管イベントとの関連はみられなかった。

本研究は糖尿病性腎症における腎血管病変が病理学的に心血管疾患の発症に大きく関与していることを証明しており、心血管病発症に対する予防戦略に貢献できる知見を湿したといえる。